



## 羽地 俊樹 (はじ としき)

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

地質情報研究部門地殻岩石研究グループの羽地俊樹と申します。昨年度までは京都大学に所属し、日本列島の中新統(特に日本海拡大頃の火成岩・堆積岩)を対象に、地質調査を通して地質構造発達史の研究をしてきました。

私がGSJを志望したきっかけは、地質調査に魅せられたことです。私はもともと濃尾平野の干拓地域の出身で、ほとんど自然を体験したことがない人間でした。大学入学時も理学の他分野を専攻する心積もりでしたが、地質学の自然踏査の地道さと研究スケールの大きさを魅力に感じて、地質学を専攻することとなりました。また私は昨年度までリサーチアシスタントとしてGSJに所属していました。その間に、先輩研究者の方々から図幅調査の話の伺い、実際の調査に同行しました。この経験を通して、図幅作成を行うGSJの地質研究者に憧れを抱いていました。今こうして紹介文を書きながら、1つの夢を叶えた喜びを噛みしめています。

私の今後の業務は、山陰東部地域の地質図幅作成です。これまでの研究を活かし、日本海拡大頃のテクトニ

クスの研究を発展させていく予定です。また対象地域には古第三系から第四紀までの様々な地質が分布しています。幅広い地質を対象とできる図幅屋になるため、多角的な視点で議論を行える研究者になるため、今までの専門に捉われることなく貪欲に新しい分野にチャレンジしていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



## 浅田 美穂 (あさだ みほ)

地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループ

このたび地圏資源環境研究部門物理探査研究グループに、プロジェクト型任期付き研究員として着任いたしました。浅田美穂でございます。地質学の基礎知識と物理探査手法(とくに比較的高い周波数を用いる音響による観測)をあわせ、海底表層近傍の地質学的情報を抽出することを専門としています。

音響調査は海域において直接観察が難しい海底面や、その直上水塊の様子、あるいは直下の地質構造を透過して見せません。私がこれまで主に扱ってきた音は、数十~数百kHzの周波数帯にあり、主に地形と後方散乱強度分布にかかる情報を数十cm~数mの解像度で提供します。このスケール感たとえば、私たちが普段目視観察で扱うミリスケールの情報と、地下浅部を観察する数十~数百mの情報を繋ぎ、異なる目的で取得される様々なデータの統合理解を可能にします。また海水に閉ざされた海底面近傍の様子を一度に広域に観察することで、効率良く海底面の情報-溶岩流の表面形態や分布、断層や亀裂を含む地形的特徴やその変化、海底面近傍に分布する鉱物の規模などを提供できます。しかしデータはノイズが混ざるほどに精度

を落とします。使用する観測機器に期待される最高精度の音響データを取得するよう、海況やプラットフォーム・機器にあわせた観測方法を提案します。海底地形・後方散乱強度データを扱われる際には是非ともお声がけください。

今回携わる機会を頂戴しましたプロジェクトでは、新規データ取得とともに、過去取得データの再解析に注力して、いまだ認識されていない海底面近傍の事実を明らかにすることを目指します。ここ産総研に来られたからには、地質調査総合センターにある膨大な地質情報を出来るだけ吸収したいと思います。この機会に感謝して、プロジェクトのお役に立てるよう、また同時に自分の力に出来るよう大切に最大尽力いたしますので、どうか宜しくご指導をくださいますようお願いいたします。





## 嶋田 侑眞 (しまだ ゆうみ)

## 活断層・火山研究部門 海溝型地震履歴研究グループ

活断層・火山研究部門の海溝型地震履歴研究グループに配属されました、嶋田侑眞です。今年3月に筑波大学で修士課程を修了し、4月より修士型研究員として勤務しております。

沿岸湿地・湖沼の地層を調べ、海溝型地震や巨大津波の履歴を解明する研究に取り組んでいます。学生時代は、堆積学を専門とする先生の下で学ぶ一方、産総研 R A として珪藻という単細胞藻類の化石を用いて古環境を復元する技術を学んできました。珪藻は、環境・底質に応じて細かく棲み分けていること、そして丈夫なガラス質の殻を持つことから地層中に残されやすいことが特徴です。地震に関連して発生する地殻変動が沿岸環境に変化をもたらし、それが地層中の珪藻群集の変化として残されていることがあります。珪藻化石を丁寧に観察することでこのような現象を復元するとともに、過去の巨大地震・津波の実態を精度よく明らかにし防災や減災に貢献したいと考えています。また、これまでの経験

を活かし、堆積学と古生物学の両方の視点を持った研究者になりたいと思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。



## 田中 衛 (たなか まもる)

## 地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

第14期イノベーションスクール生として2020年4月から採用となった田中衛です。所属は地質情報研究部門の海洋環境地質研究グループです。わたしの名は母親が大ファンだった宇宙飛行士の毛利衛さんから取られており、わたし自身いまこうしてアカデミックの入口に立っていることにある種の縁を感じています。海洋の物理的な動態は乱流で決まる—海水中のあらゆる溶存物は(それはときに生命に必要な酸素であったりしますが)海流によって広い空間に拡散していきます。しかしながら線形の動きのみでは、輸送こそされども、異なる特徴を持った水塊と混ざり合うことはありません。例えば、分子拡散のみでは1年間に1メートル程度と非常にゆっくりとしたペースでしか拡散しません。実際の海では非線形の動き—すなわち乱流—が物質の輸送に大きな役割を果たしており、乱流抜きでは現在の海洋の平衡状態を説明することができないと言われ

ています。まだまだ至らない点が多くあると思いますが、GSJという新しい環境で多くの刺激を頂いて研究者として、またヒトとして成長できたらいいな、と思っております。

